

令和３年度授業改善推進プラン

東村山市立久米川東小学校 第１学年

教科等		資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能		・語彙が不十分な児童がいる。 ・考えたことを文字にすることが困難なときがある。 ・長音、拗音、促音などの表記、助詞「は」「へ」「を」の使い方が正しくできない児童がいる。	・学校や家庭で音読を繰り返し、語彙を豊かにしていく。聞いたり読んだりする際に新しい言葉に着目させて発問を行う。 ・平仮名学習や簡単な日記指導などを繰り返していく。 ・試写や聴写などを取り入れ、繰り返し指導する。 ・タブレットドリルを活用して学習内容の定着を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等		・文字は読めても、言葉として捉えることが難しく、内容が分からないことがある。 ・場面に合わせた読み方ができないことがある。 ・話を集中して聞き、話の内容を捉えることが苦手な児童がいる。 ・自分の思いや考えを伝えることが苦手な児童がいる。	・説明文を、問いと答えに分けて読み取らせる。 ・気持ちを考えたり表現したりできるように物語文を音読劇や役割読み等で行っていく。 ・連絡事項を聞き取る練習や、相手の発言を聞いて質問したり復唱して確かめたりする活動を取り入れる。 ・ペアや小グループで話す経験を重ねていく。朝の会のスピーチ等、自分の思いや考えを伝える機会を設定していく。
	学びに向かう力, 人間性等		・文字を丁寧に書こうという意欲がある児童が多い。 ・読書を好む児童が多い。一方で、読みたい本が選べない児童や興味のある本が偏ってしまう児童もいる。	・読み聞かせ等で読書の幅を広げる。 ・学習の見通しをもたせ、個に応じた指導を行い、スモールステップで達成感をもたせていく。
算数	知識及び技能		・１０までの加法・減法は比較のよくできる児童が多い。一方で、１０の概念の習得が不十分のため、時間がかかってしまう児童もいる。	・「１０は３と７」というような数の構成概念を構築させる問題に繰り返し取り組む。 ・休み時間や放課後、個別指導をする。 ・タブレットドリルを活用して基礎学力の定着を図るとともに、個々の能力に合わせた学習に取り組めるようにする。
	思考力, 判断力, 表現力等		・文章を読んで演算決定をしたり、式を立てることが苦手な児童がいる。	・文章を読み、その場面をブロックを使って再現させたり、文章中の数字などに印をつけたりして問題場面をイメージできるようにする。
	学びに向かう力, 人間性等		・学習に対して意欲的に学んでいる児童が多い。一方で、受身になっていたり消極的な児童も少数いる。	・児童が学習を広げていけるように発問を工夫する。
音楽	知識及び技能		・知識は例年同様順調に進む。しかし、実技と伴っての習得という面では不安が生じる。技能については、厳しい制限の中よく努力しているが、練習回数の少なさはいかんともしがたいところがある。	・家庭での個別練習はできるのでこれと連携しながら、個人練習の回数を確保することも考えていく。また、いままでの状況でも行ってきた練習メニューをさらに練習回数確保の点から改善して学力の向上を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等		・関連性の高い項目なので、表現力が厳しく制限された状況なので例年と比較するのは、厳しい。特に歌唱に関する思考、表現力には自制という要因が含まれてしまう。半面、聴く、鑑賞する力から始まる諸能力については十分に時間を費やせた。	・時間や回数等の制限下でも集中して、声量を抑えた中でも表現してよいことを促していく。 ・状況が改善されたことも想定して、口形、姿勢などの基本的な能力を定着させておく。
	学びに向かう力, 人間性等		・今までの項目とは異なり、制約の中でもしっかりと学習に向かう姿勢、友達の発表をしっかりと聴く活動など十分に保障してきた。しかし、集中力に難がある児童には指導が行き届かにくいことも生じた。	・集中力も徐々にではあるが、続く時期になる。一人一人の向上した点を認め合う場面を多く設定したり、家庭での練習も含めて課題に対して向上した姿を紹介するなど、違いに気づき認め合う人間性を育んでいく。
図工	知識及び技能		・今までの経験を生かし、はさみやのりなどの基本的な道具の扱いができる児童が多い。 ・技能や感覚には、個人差が見られる。	・手先を使う教材やいろいろな道具を使った教材を取り入れ、学習活動をする中で、基本的な技能を身に付けることができるようにする。
	思考力, 判断力, 表現力等		・多くの児童が自分なりに考えて取り組んでいるが、迷っていたり、なかなか考えが表現できなかったりする児童がいる。	・豊かに発想しのびのびと表現できるような教材を工夫する。 ・イメージしやすいような発問したり、表現の仕方を示したりしながら、児童が見通しがもてるような授業展開を考えていく。
	学びに向かう力, 人間性等		・意欲的に楽しんで取り組んでいる児童が多い。一方で、苦手意識があり消極的になってしまう児童もいる。	・上手に作品を作ることよりも、意欲的に楽しんで取り組むことができるように教師の関わりを工夫する。 ・教科書の指導の要点を抑えつつ、児童が興味をもてるような題材や学習過程を考える。
体育	知識及び技能		・コロナ禍により、他者と関わり合いながら体を動かして遊んだり、運動したりする機会が減っており、体力の低下、体幹の弱さが目立つ。	・準備運動等で体幹を鍛える運動を取り入れる。
	思考力, 判断力, 表現力等		・児童が自己評価をする際、自分がどのように動いているのか分からず、内容を深めにくい。	・友達との動きから上手なところを見付け、伝え合うことを通して、自分の動きを振り返ったり自分の動きに活かしたりすることができるようにする。
	学びに向かう力, 人間性等		・意欲的に取り組もうとする児童が多い。 ・経験したことのない運動や苦手意識のある運動に取り組む時、初めから「できない。」と消極的になってしまう児童もいる。	・失敗しても大丈夫という雰囲気の中で運動できるようにする。また、できたことを認め、達成感を味わわせながらスモールステップで取り組めるよう運動の場の工夫をする。
生活	知識及び技能		・知識はともかくはさみ、のり、セロハンテープなどの使用における技能がややもすると停滞しがちな昨今の状況がある。	・技能の向上により新しい知識を得る機会も多々あるので、技量を高める機会を学級活動や読書活動等と連携して大幅に増やしていく。 ・タブレットの基本的操作を習得し、様々な学習活動で活用できるようにする。
	思考力, 判断力, 表現力等		・友達との交流の回数は、大幅に減っているため厳しい面はあるが、対物的な観察は、変わらずできているので、観察に関わるこれらの力は確実についている。	・児童同士の交流場面は変わらず制限があると想定して、それでも個別に取り上げて成長している点、優れた見方、考え方を紹介して一般化することは十分にできる。それが表現に及ばず影響も十分にあると考えられる。
	学びに向かう力, 人間性等		・厳しい制約のもとにしっかりと活動しているだけに、お互いの成長を認め合おうとする意欲は伸びていると感じる場面が多い。	・隣同士で違いを学び合う機会があるので、意図的に学び合う時間を取っていく。その上で代表による全体交流を位置付ければ、かなり多くの学びの機会が保証されることになる。また、担任によるタブレットを活用して優れた活動を紹介する機会も取り入れていく。
道徳	知識及び技能		・資料を通して考えたことを、自己の生活場面においての振り返りに活かそうとしている児童がいる。	・教材から感じ取れたことや考えたことを記録し、児童自身に自分の変容を気付かせる。また、教師がそのことを認めるようにする。
	思考力, 判断力, 表現力等		・年齢による語彙の獲得差や入学前までの生活経験の差によって、表現に差が見られる。	・生活の中で経験する道徳的な価値を、教師が言語化して意識付けさせる。
	学びに向かう力, 人間性等		・自分の気持ちや考えをなかなか表現できない児童もいる。	・ペアでの対話的活動を十分に取り入れ、コミュニケーションを図る中で、様々な考えにふれるようにする。